

第48回北区区政会議(R7.6.27)における意見への対応状況

[資料 2]

番号	委員名	担当課	意見	区政会議答弁	対応方針 (事後対応内容)
1	木下委員	地域課	地域コミュニティへの新規参画には調整や受け入れ体制に課題があり、脳活性化教室受講者が地域活動へ移行する橋渡しも不十分である。区役所等が調整役となり、意欲ある人材を活かした持続可能な地域基盤づくりが重要と考える。	マンションコミュニティ支援事業としては、マンション防災を通じてコミュニティの活性化を試みている。地域コミュニティをより一層活性化し、地域の取組を受け継いでいけるように、区としてもいま一層引き続き地域支援に取り組んでまいりたい。	9月23日に大阪市立住まい情報センターで開催された、大阪市マンション管理支援機構と大阪市共催の「知っとく！納得！行っとく？マンション管理EXPO2025～マンション管理フェスタ～」において、ブースを出展し、町会加入促進のためのチラシを配布した。 地域活動について、北区のFacebookやX、ピアッザなどのSNSを活用し、タイムリーかつ積極的に情報発信を行うとともに、10月19日の北区民カーニバルにおいて、北区まちづくりセンターがブースを出展し、SNSのさらなる周知に向け、閲覧・操作方法のレクチャーなどを行った。
2	二口委員	地域課	地域コミュニティについて、ジシン本出張講座等で町会加入促進のパンフレットを配布した実績人数のうち、実際に何人が町会に加入したのか確認する必要がある。パンフレットの配布が目的化し、加入者数という結果が伴わないのは問題である。行政が主体的にリードし、地域と協働することが最も重要だと考える。	パンフレットを配布した人数は把握しているが、実際の町会加入者数は把握していない。今後も地道な取組と情報発信で町会加入促進に努めていきたい。	同上
3	栗原委員	地域課	町会ごとに規模や活発さに大きな格差があり、小規模で高齢化が進む町会では存続の危機もある。町会の統合や活性化策を行政にも支援してほしいと感じている。今後も町会が良い形で存続できるよう願っている。	答弁なし	—
4	西野委員	地域課	地域の治安悪化に対して、清掃等の地域活動による抑止力には限界があると感じる状況である。地域としては、より踏み込んだ対策や強固な体制の構築が必要であると考えます。	地域の見守りや見回り活動については、区役所が警察及び消防と連携し協力していく方針である。また、地域の特性を踏まえつつ、民間・地域団体および関係機関と議論を重ね、協力して取り組みを進めていきたいと考える。	12月25日に地域、行政(警察・大阪市(消防局・健康局・環境局・区役所))でJR天満駅北側地域内の現状と今後の取組みの在り方について意見交換会を実施した。 12月26日に地域、企業と行政(警察・大阪市(消防局・健康局・建設局・環境局・区役所))が一体となり、JR天満駅北側地域内の路上看板や客席等マナー向上に向けた啓発・清掃・見守り活動を実施した。 また、令和8年度北区運営方針(案)において、地域において懸念されている街頭犯罪への対応を課題として位置付け、引き続き地域の特性に応じた連携の強化を図る。
5	島村委員	子育て・教育課	小学生の学力向上については、数値に表れにくい価値ある取組も見受けられるため、目標達成の評価に際しては、定量的な数値指標だけでなく、定性的な視点や将来を見据えた展望も併せて示すことが、より分かりやすいと考える。加えて、令和7年度北区運営方針の経営課題の中に小学生の学力向上が盛り込まれていない点について、その理由を伺いたい。	教育に関する課題は、即座に数値に直結するものではなく、定性的な視点や多様な切り口についても検討していく必要があると考える。小学生の学力向上の支援については、今後も継続していきたいと考えているが、側面的な関わりであることから、経営課題の見直しの過程において、今回の方針からは外れたものと承知している。	同左